

大賞 国土交通大臣賞

大分駅南地区

所在地 大分県大分市
 地区面積 約 49.6 ha
 応募者 大分市、大分いこいの道協議会

地区概要

鉄道により駅北地区と分断されていた駅南地区(当地区)は、周辺部からのアクセス性が悪く、低未利用地が多く存在し、また踏切遮断による交通渋滞の発生など様々な課題を抱えており、駅北との一体的な発展が妨げられていた。このような課題解決のため、大分駅の高架化と併せて、「大分駅南土地区画整理事業」と関連する街路事業を三位一体の事業として実施した。この事業により、長年の懸案事項であった南北市街地の一体化の実現と、当市の玄関口にふさわしい規模の大きな公共空間の整備と併せて駅周辺街区の有効・高度利用や周辺部の都市型住宅地が整備され、周辺部からのアクセス性も向上し良好な都市景観の形成と都心居住環境の整備がなされた。また、ハード面の整備と併せて、まちなみづくりのガイドラインの策定や地区計画の決定、屋外広告物の制限を行うなど、民有空間の良好な景観形成を図るソフト面の施策も行っている。

シンボルロード「大分いこいの道」では、市民ボランティアで組織された「大分いこいの道協議会」が設立され、整備後の芝刈りや清掃活動等の維持管理や広場利用の啓発、賑わい創出のイベントの開催など地区の景観保全や賑わい創出に取組んでいる。



当地区は、大分市の中心市街地で大分駅(写真上)の南側に位置する。当地区の南側に位置する上野丘・都心の森(写真下)とJR大分駅を結ぶ大分駅上野丘線を「緑の景観軸」と位置づけし、多目的広場や緑地として整備を図った。



シンボルロード北側を市民 2700 名の参加による市民植樹祭。(平成 25 年 3 月)

審査講評

大分駅南地区は全国で展開された駅隣接の国鉄跡地開発の一つであり、連続立体交差事業を伴っている。その整備された駅南側に出てみる。なんとという空間であろうか。大分市の中心駅を出たところに広大な市民のための自由な空間が広がっている。お邪魔したのは 2 月の晴れの日。お昼頃は幼児を連れのお母さんやビジネスマン風の人、夕方になると高校生が思い思いの使い方をしている。都市景観とは目に見える都市の姿のことだと思うのであるが、この地区はそれ以前に、土地区画整理事業において本当に頑張っていて、幅 100 m の公共空間を捻出した。歩行者が寛げるような設計レベルの取り組みも見事であるが、この新しく創出された広大な空間は未来永劫残る。接する建物の形態コントロール、一体となって機能する複合的な公共施設の同時整備、市民による空間管理など、一通りすべきことも整っている。この空間づくりは長い時間の中で多くの人に関わった成果であると思うのだが、応募の中でその方達が見えない。この賞はそれら全ての人を表彰するものである。(高見)



大分駅から南側上野丘・都心の森方面を望む。JR大分駅と上野丘・都心の森(写真上)を結ぶ大分駅上野丘線を「緑の景観軸」と位置づけ、「大分いこいの道」として整備され、東側には、複合文化交流施設「ホルトホール大分」が建設されている。



「大分いこいの道協議会」による活動として毎年行われる「大分いこいの道誕生祭」。